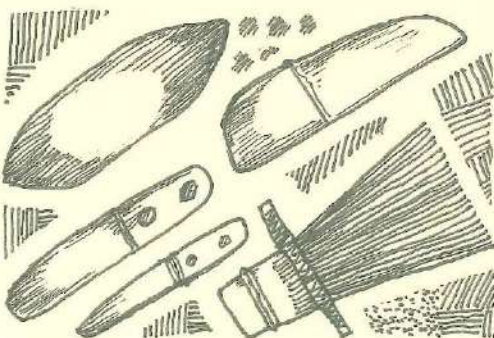
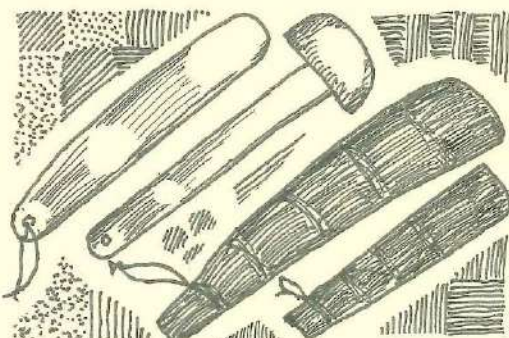




ものづくりをすることで進み道が見えてくることもある
はりかど

張籠で若者を支援します

ものづくりの良さは手を動かしていると話さなくてもその場に居られることです。
その人がこしらえるその作はやがてその人自身の励みになるはず。



- 孤独を感じ、孤立しているひきこもりの若者に届け!!
- コロナ禍のせいで大学を休学や退学に追い込まれたものづくりに興味ある男性1名女性1名
 - コロナ禍のせいで20代のバイトや定職を失ったものづくりに興味ある男性1名女性1名
 - コロナ禍のせいで30代のバイトや定職を失ったものづくりに興味ある男性1名女性1名

- 内容について
- ものづくりに興味のある若者20代~30代の男性3名女性3名を募集
 - 費用は、材料含めて一式こちらで負担
 - 月に1回(平日の夕方か夜にかけての時間)約1年半の15回通える方。(作が完成するまで)
 - 密を避けて、3名から2つのグループに分けて対応。

申し込み方法について

- 興味ある方は、張籠工房へ手紙を下さい。そこからやりとりが始まり、通う曜日と時間を相談。

〒607-8104 京都市山科区小山谷田町15の28
張籠工房 石川 裕二宛
電話 075-594-2598 毎週水・木・金曜日の午前中ならお話しすることが出来ます。

張籠のこしらえ方



1. 竹で編んだ籠に和紙をのり付けて張ります。使用するのりは、おぼろのあるグビシカ糊です。



2. 最初厚手の和紙を貼る。後は薄手の和紙と糊を交互に張り、この時、糊が乾くという道具を使って、おぼろを貼る。



3. 和紙を張って、よく乾燥させ、しっかりと重ね張りします。そして表面にグビシカ糊を塗り、背りませる。



4. 小物には5~6枚の和紙を内・外に張った後、張り忘れ等の修正箇所を補って形を整える。



5. 次に下地塗りとして紅柄を稀液で溶いたものを籠の内と外全面に塗ります。



6. 次に表面のザラ付きや必要の修正を施した後、いから仕上げ塗りとして、カシュー漆を使用します。



7. 仕上げ塗りは、5回から多いものでは、10回以上なるもの。専用の刷毛を使い、カシュー漆を塗り、乾燥させをくり返します。